



富士山に設置されたエコトイレ。年間数十万人といわれる観光客・登山家などの排泄物をこのエコトイレで処理することにより、自然に放置されることもなくなり、富士山の恵みである地下水の保全にも役立つと考えられます。



## 富士山の美化支援をはじめ、国内の自然保護に対する啓発を行います。

プロジェクトパートナー/NPO法人 セブンサミッツ持続性社会機構  
助成金額 / 5,000,000円

「富士山」は、ごみがあまりに多いため、世界遺産に登録されませんでした。また、世界遺産に登録されている「屋久島の杉」「白神山地のブナ」などの原生林でも、自然破壊が深刻化しています。

2002年度は、アルピニストの野口健さん(NPO「セブンサミッツ持続性社会機構」)とともに、富士山の環境保全のために、杉チップ式エコトイレを2基寄付しました。また、富士山1合目の紅葉、および5合目の佐藤小屋への設置作業

には、野口健さんが支援しているNPO「富士山クラブ」も加りました。

2003年度は、富士山と白神山地で、野口健さんの「夏休み自然学校」を開催し、国内希少自然保護の重要性を啓発します。また、白神山地のブナ原生林の保全の一助として、エコトイレの寄贈も行う予定です。



野口健さんに支援目録を贈呈するエコカード基金理事長